

# 認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成27年5月  
高槻市(大阪府)

## 全体総括

○計画期間:平成21年12月～平成27年3月

### 1. 計画期間終了後の市街地の状況(概況)

基本計画に基づき「訪れたい、住んでみたいまち高槻～『大阪(なにわ)』と『京都(みやこ)』の交流拠点～」を将来像とし、中心市街地の活力を維持・増進し、本市の「玄関口」として市民が愛着と親しみを持てるまちづくりを進めてきた。対象となる約150ha区域には、JR高槻駅と阪急高槻市駅という2つの「交通核」があり、計画の推進にあたって、区域をJR高槻駅より北の「駅北ゾーン」、JR高槻駅と阪急高槻市駅間の「駅間ゾーン」、阪急高槻市より南の「駅南ゾーン」に分けて67事業に取り組んできた。

計画期間中、JR高槻駅北ゾーンでは、JR高槻駅北東土地区画整理及び民間事業者による北東地区の駐車場の整備が進み、平成24年度末に事業が完了した。その間、関西大学の社会安全学部や大学院、小・中・高等部の開設、大規模集合住宅の整備、商業ゾーンの開設等に伴い、新たな都市機能が総合的に整備され、まち全体のにぎわいをもたらしている。並行して、都市計画道路の改良工事も着手し、自動車交通の円滑化を図る等、官民一体となった安全・快適な利用環境の整備が確実に進捗した。一方で、北東側の通行者を、通行量の伸びの小さい北西側の芥川地区にも回遊させる更なる取組が課題となっている。

「スクエア型モール」として計画に位置付けた駅間ゾーンでは、JR高槻駅南人工デッキの整備が行われる中、空き店舗が目立っていた「グリーンプラザたかつき1号館」の新規出店が進んだこともあり、まちのにぎわいが向上した。立地の良さから、中心の商店街やその周辺では新規出店者も多く、創業への意欲の高まりが感じられ、シャッター商店街化の予防策としても、創業支援の強化が望まれる。また、商店街中心に防犯カメラの設置、照明のLED化も手掛けられ、安全な歩行空間が確保され、体感治安の向上に繋がっているが、平日もにぎわう各商店街では、自転車のマナー悪化が問題となり、喫緊の手立てが必要となっている。

阪急高槻市駅南ゾーンでは、駅高架下、商店街周辺の歩行空間改善事業等により「美装化」の取組が手掛けられるとともに、道路改善も進められるなど、安全・安心に関わる事業が展開されている。一方、駅南の集客機能の核となる「文化施設の再整備検討事業」については計画の延長もあり、駅北ゾーンや駅間ゾーンのにぎわいが駅南にもたらす影響は少なく、今後の最重要課題でもある。

計画期間内に、北東区域の主要事業はほぼ予定通り取り組まれ、JR高槻駅の利用者や北東地区の定住者が増えたことは、まち全体の活性化に繋がっている。同時に、高槻市中心市街地活性化協議会を中心に産学官ネットワークが強化されたことは、大きな成果であると考えられる。

**2. 計画した事業は予定通り進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)**

**【進捗・完了状況】**

- ① 概ね順調に進捗・完了した      ② 順調に進捗したとはいえない

**【活性化状況】**

- ① かなり活性化が図られた  
② 若干の活性化が図られた  
③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)  
④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

**3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)**

計画していた事業は概ね遅延なく実施でき、67事業中36事業が完了、31事業に着手することができたため、当初の予定通りの進捗が図られたといえる。

ただし、本市の人口(355,240人 平成27年3月末現在)の変動がほとんど見られない反面、周辺都市では人口が増加し、大規模都市開発が進行している現状を鑑みると、永続的に、より魅力的なコンパクトシティ作りに手掛けていく必要があると考える。

事業の展開から見ると、今回、ほぼ順調に進捗したJR高槻駅北東土地区画整理事業の完了により、北東区域に、関西大学、大規模集合住宅、大規模集客・複合施設の一部が整備されたことは、市全体の活性化に大いに貢献したといえる。引き続き、デッキの整備や住宅とクリニックを兼ね備えた複合施設等の開設が予定されており、更なる都市機能の充実が期待できる。

また、百貨店と商店街の連携(大阪オンリーワン商店街創出事業)をきっかけに、商店街での活気のある取組み(「まちセリ」「高槻アート博覧会」等)がマスコミに取り上げられ、外部への情報発信ツールの構築が出来つつある。本市のマスコットキャラクター「はにたん」を中心市街地のランドマークの一つとし、市の玄関口であるJR、阪急の駅に像を設置し、市バスや看板等、色々な所にイラストを使用することにより、話題づくりと集客力の向上が図られた。

中心市街地内の回遊性の向上には、昼夜問わず安心して過ごしやすい空間の形成が重要であり、美装化や防犯カメラの設置等に取り組んだ結果、安全・安心なまちづくりの形成に繋がっている。一方、「高槻ジャズストリート」「唄まき Station」「たかつきバル」「食の文化祭」等、市民や商業者の有志による各種イベントが、主体的かつ継続的に展開され、まちににぎわいをもたらしている。

以上のことより、高槻の顔となる中心市街地において、市民、関係団体等に理解と協力を求め、協議会を中心に、民間事業者との連携体制を強化しながら事業を展開してきた結果、厳しい経済状況にかかわらず、まちの整備が進み、未完了の事業もあるが若干の活性化が図られたと考える。

#### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

##### 【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④ 活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

##### 【詳細】

高槻市中心市街地活性化協議会としては、年に一度の全体会議を中心に、それぞれの事業の進捗状況を議論し、課題を集約しながら、ステップアップが図られる手法について検討してきた。その結果、計画に位置付けた事業は、概ね順調に実施されたと考える。

また、回遊性向上に向けた地域発信事業として、協議会による「高槻まちセリ」に取組み、一定の成果が得られたことは、まちづくりの更なる展開に繋がったと考える。全体会議では、協議会の参画メンバーによる、団体の紹介や事業の取組み報告も行ったが、相互に効果的な事業推進の参考になったようである。

一方、経済情勢などの影響から完了していない事業が31あり、計画に掲げた2つの数値目標についても、基準値および目標値に及ばず、今後の活性化推進に向けた課題も多い。

しかし、計画に位置付けられた様々な事業の展開は、市民を始めとして、商業者団体、商工会議所、公共交通事業者等の協議会構成メンバーや市民団体等にとって、まちづくりに対する数字に表れない意識の向上につながり、将来に向けて、安心できるまちの地盤づくりが図れたことは評価に値する。

引き続き、中心市街地の活性化に向け、協議会の連携体制を強化し、官民一体となって未完了の事業に取り組むとともに、市民や関係団体等とともに更なる活性化と魅力あるまちづくりに向けて努力をしていく所存である。

#### 5. 市民意識の変化

##### 【活性化状況】

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④ 活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

##### 【詳細】

高槻市市民意識調査(平成25年12月)から、市民の評価としては、若干の活性化が図られたものと判断する。理由としては、以下のとおりである。

[市民意識調査より]

- 中心市街地に行く頻度は増加傾向にある。
- 商店街や大型店の魅力については「向上した」という評価が、魅力的な飲食店について「増加した」という評価が得られた。
- 文化活動・コミュニティ活動についても「向上した」という一定の評価を得た。

○中心市街地のにぎわいについて、一定の向上が認められている。

○居住環境について、半数以上が向上したと評価している。

特に商業的な魅力において、高く評価されたと考える。ただし、道路渋滞については「増えた」とする回答が約3割を占めるなど、課題も残っている。

#### 高槻市中心市街地の活性化についての市民意識調査【平成25年度】

##### <調査概要>

調査対象:市内在住の20歳以上の男女2,000人

調査方法:調査対象を無作為抽出し、配布・回収ともに郵便

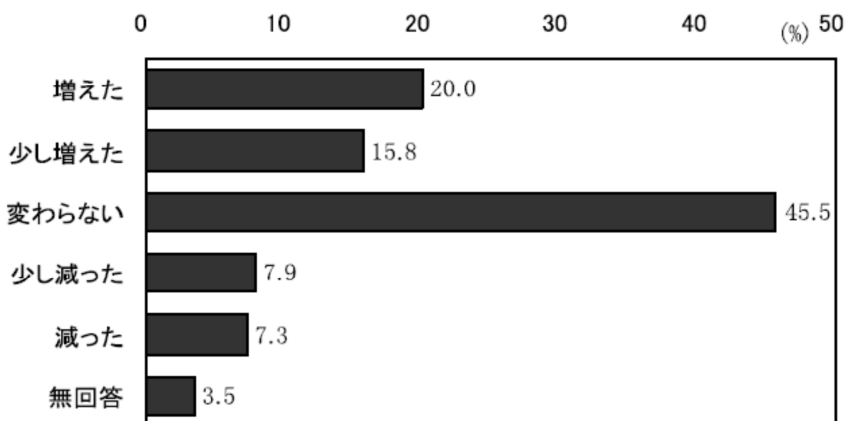
調査期間:平成25年12月2日(月)～平成25年12月16日(月)

回答状況:有効回答数865人 回収率43.3%

**【質問】買い物、食事、娯楽などで中心市街地に行く頻度は、以前(3年程前)と比べてどうか。**

**【集計】**以前と比べて中心市街地に出かける頻度が「増えた」が20.0%、「少し増えた」が15.8%で、この合計値35.8%は、「少し減った」(7.9%)、「減った」(7.3%)の合計値15.2%より高い。全体として中心市街地へ出かける頻度は増加傾向にある。

<集計図:買い物などで中心市街地に出かける頻度の変化>



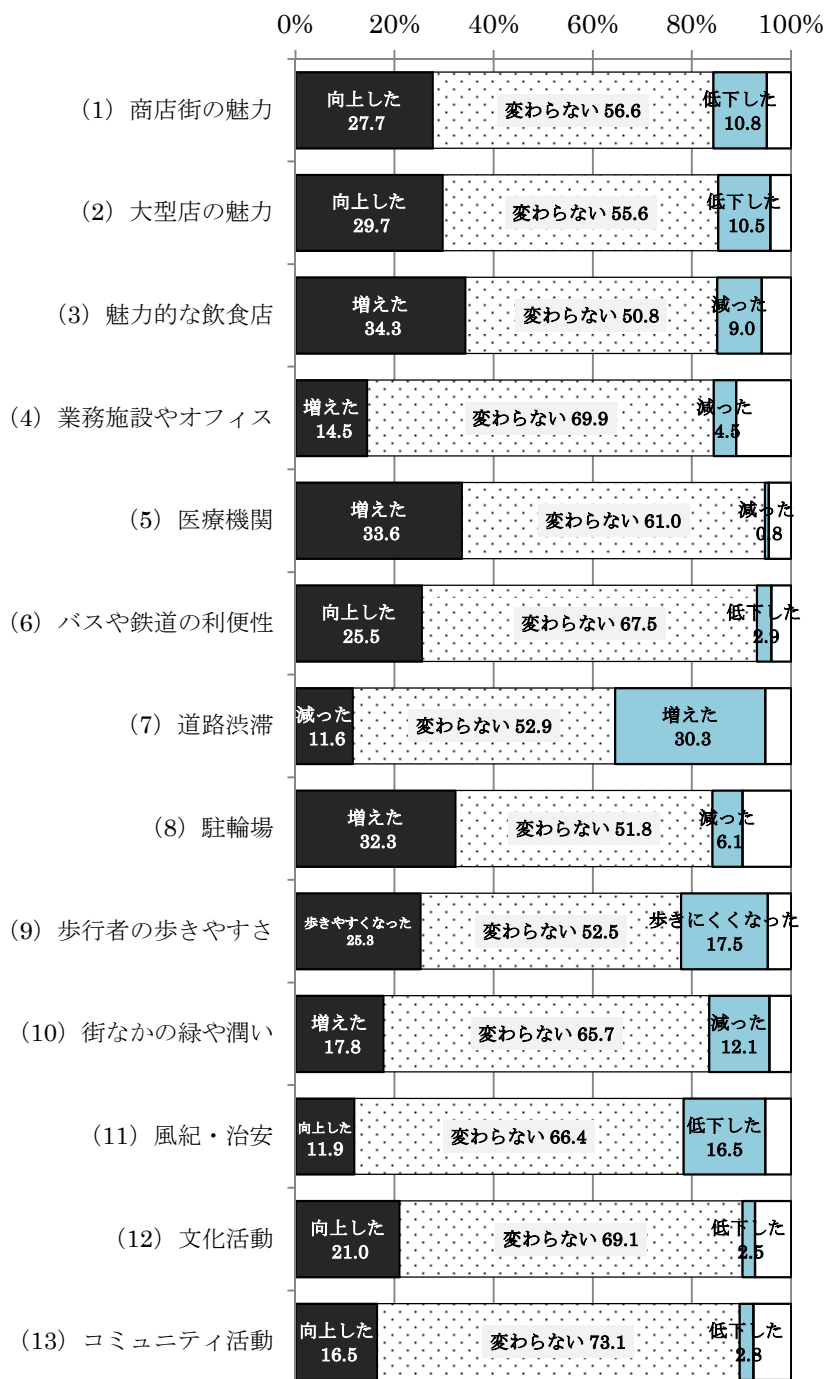
**【質問】高槻市の中心市街地について、以前(3年程前)と比べて、どのように感じているか。(1)～(13)についてそれぞれ回答。**

- (1)商店街の魅力 (2)大型店の魅力 (3)魅力的な飲食店
- (4)業務施設やオフィス (5)医療機関 (6)バスや鉄道の利便性
- (7)道路渋滞 (8)駐輪場 (9)歩行者の歩きやすさ (10)街中の緑や潤い
- (11)風紀・治安 (12)文化活動 (13)コミュニティ活動

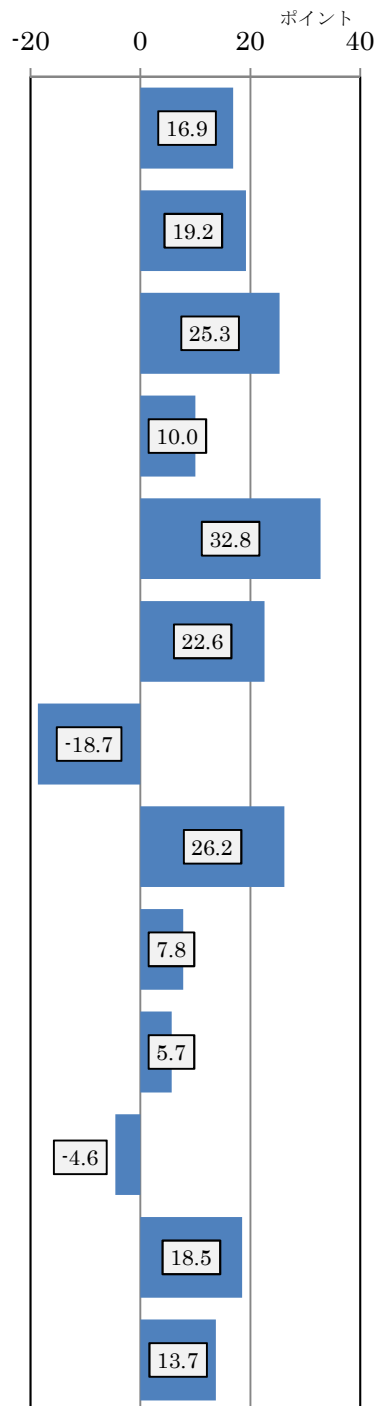
**【集計】(1)～(13)のうち、プラス評価の割合が高いのは、(3)(5)(8)など。  
マイナス評価の割合が高いのは(7)(9)(11)など。**

<集計図:中心市街地の変化>

中心市街地の変化[SA] N=865



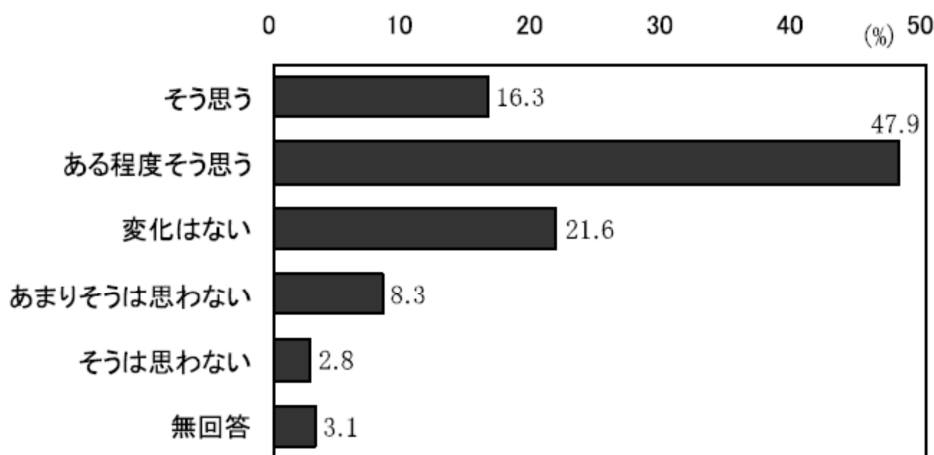
左グラフ内右端の白抜き欄は全て[無回答]  
右グラフの値は、  
(第1選択肢割合) - (第3選択肢割合)



【質問】以前(3年程前)と比べて、中心市街地が買い物やイベントなどでにぎわうようになったと思うか。

【集計】中心市街地が買い物やイベントでにぎわうようになった(「そう思う」とする割合は 16.3%、「ある程度そう思う」とする割合は 47.9%で、合計 64.2%となり、3人に2人は、にぎわいの増加を認めている。

＜集計図：中心市街地がにぎわうようになったか＞



## 6. 今後の取組

本計画を展開している中、民間の不動産情報誌(株)リクルート『スーモ』の関西版に、平成 22 年と平成 24 年の二度にわたり、「住んでみて良かった街ランキング」で第一位となった。市民が中心市街地に出かける頻度は増加傾向にあり、商店街等での買い物や医療機関の充実、まちの安全などが評価され、JR と阪急の 2 つの「交通核」を中心に、大型商業施設と商店街が連続するスクエア型モールとして、協議会や行政、民間事業者、市民、関係団体が連携して取組んだことが成果に繋がったと考える。

しかし、立地の良さの反面、大阪、京都という二大都市の間に埋没してしまう恐れと、現在進行している、近隣都市の大規模開発が本市中心市街地の活性化に大きく影響してくることが懸念される。

今後、本市では、JR 高槻駅のホーム拡充、新西口改札の整備、新名神高速道路・高槻インターチェンジ・ジャンクションの供用開始など、まちのにぎわいをもたらす計画が進んでおり、更なる都市の魅力と活力が高まるチャンスでもある。本市が他都市への通過点とならないように、計画の成果を生かしながら、引き続き官民一体となって「訪れたい、住んでみたいまち 高槻」に向け、積極的に事業を展開していく。

なお、平成 27 年度より第 2 期計画の検討を行っていくが、基本的には第 1 期計画を継承していく。特に、未完了事業である、8. 「回遊性向上のための顧客利便施設の整備(松坂屋東～高槻センター街商店街)」、21. 「回遊性向上に向けた道路改善事業(阪急高槻南駅前通り)」、23. 「都市公園の再整備検討事業(高槻城跡公園)」、27. 「文化施設の再整備検討事業」等を推進していく。交通渋滞については基本計画策定時から課題として指摘されてきたが、明確な改善は見られず、解決に向けて引き続き取り組んでいく必要がある。

また、こうしたハード面の整備を進める一方、自然や文化・歴史的な地域資源を活用した観光振興を図るとともに、市民グループ等による、話題性のあるイベントの創出支援・情報発信を強化する等、ソ

フト面にも力を入れることで、高槻の独自性や高槻ブランドの構築を図っていく。

そして、これらの事業を効果的かつ戦略的に展開し、駅北ゾーン、駅間ゾーン、駅南ゾーン相互の行き来を創り出し、中心市街地全体ににぎわいを波及させていく。

**(参考)**

**各目標の達成状況**

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
中心市街地内の回遊性の向上	歩行者 通行量 (平日)	57,642 人 (H19)	62,000 人 (H26)	55,986 人	H26.10	C
商業の質の向上による、商業集積の吸引力の増進	小売業 年間商品販売額	865 億円 (H19)	約 870 億円 (H26)	776 億円	H26	C
まちなか居住の推進						

注) 達成状況欄

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値および目標値にも及ばなかった。)

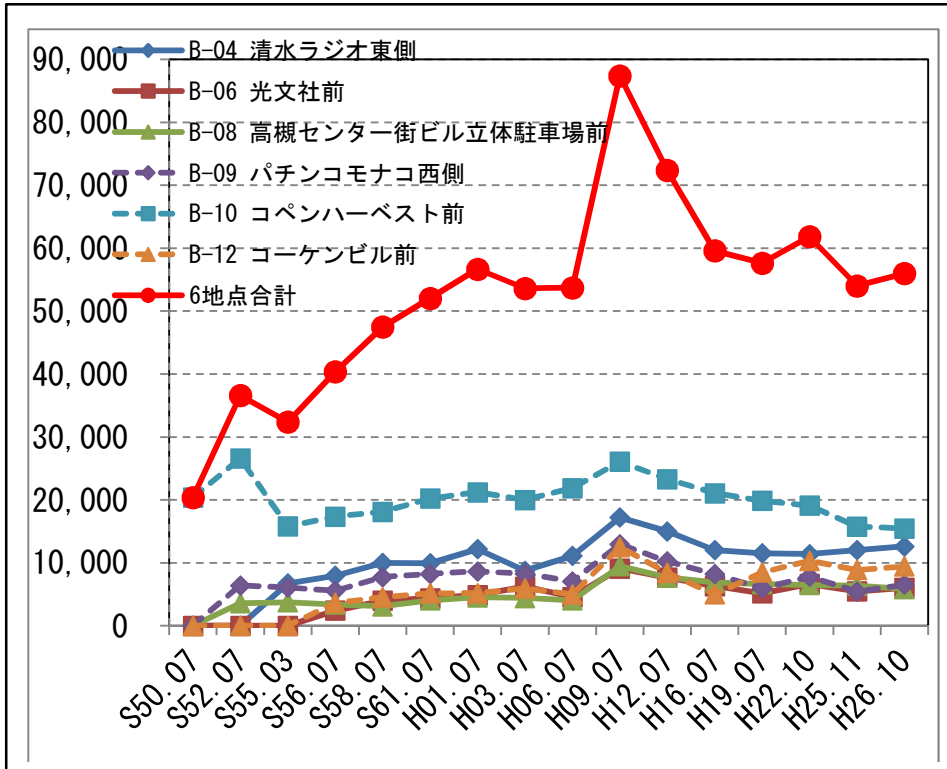
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値および目標値にも及ばなかった。)



「歩行者通行量(平日)」※目標設定の考え方(基本計画P59～P66参照)

1. 調査結果の推移

単位：人、台



調査年月	合計
H19.07	57,642 (基準年値)
H22.10	61,824
H25.11	54,016
H26.10 (目標)	55,986 62,000

※調査方法;歩行者通行量調査

※調査月;平成26年10月に実施

※調査主体;高槻市

※調査対象;歩行者(小学生以上の男女別)及び二輪車

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①民間事業者による大規模集合住宅等の整備(北東地区)(阪急不動産株)

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成20年度～平成26年度【済】
事業概要	本市の玄関口であるJR高槻駅の北東地区に、約900戸の集合住宅の整備、また、商業・業務・サービスなどを備えた複合施設の整備を行う。
目標値・最新値	目標値：1,700人増/日 最新値：1,700人増/日
達成状況	達成

達成した(出来なかった)理由	当初の計画どおり、J R高槻駅北東地区に大規模集合住宅が整備され、居住人口が増えたことで目標達成に至ったと考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	新規住宅が供給されたことにより、当該地区における歩行者通行量の減少傾向の抑止に貢献したと考えられる。
当該事業の今後について	実施済み。

② 大学による都市型キャンパスの整備(北東地区)(学)関西大学

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了期間	平成 20 年度～平成 21 年度【済】
事業概要	本市の玄関口である J R高槻駅の北東地区に、関西大学高槻新キャンパスを新設する。小学校・中学校・高等学校・大学・大学院・社会人までの一貫教育を実践するとともに、市民活動を支援する市民開放施設を整備する。また、大学では安全・防災・危機管理を取り扱う(仮称)社会安全学部を設置し、地域に根ざした大学として「社会貢献型都市キャンパス」を目指す。
目標値・最新値	目標値：3,700 人増/日 最新値：3,700 人増/日
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	当初の計画どおり、J R高槻駅北東地区に関西大学の新キャンパスが整備され、通勤・通学者が増えたことで目標達成に至ったと考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	大学の立地により、歩行者通行量の減少傾向の抑止に貢献したと考えられる。
当該事業の今後について	実施済み。

③ 民間事業者による集客拠点整備事業(ワークホテル駐車場)(フジワーク株)

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了期間	平成 21 年度～平成 24 年度【済】
事業概要	本市の駅間ゾーンは一定のにぎわいが維持された状態にある。しかしながら、来街者が滞留・休憩し、相互に交流を図る拠点施設が不足している。そこで中心部の「へそ」にあたる箇所(ワークホテル駐車場)に民間事業者が集客施設を整備し、不足業種を導入することで来街者の滞在時間延長とにぎわいの創出を図る。
目標値・最新値	目標値：2,080 人増/日 最新値：2,080 人増/日

達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	当初の計画通り、平成 24 年度に、温泉を核とした宿泊施設を含む複合施設が整備され、歩行者通行量が増加し、目標達成に至ったと考える。
計画終了後の状況(事業効果)	温泉・飲食店を含む宿泊施設が整備されたことで、来街者の滞在時間延長が図られた。
当該事業の今後について	実施済み

④ 民間事業者による集客拠点整備事業（豊都ビル）（株豊都）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 26 年度【未】
事業概要	高槻市場および隣接する商業ビル（豊都ビル）の一体的な活用を図るため、当該街区全体の将来的なビジョンを確立するとともに、高度利用を図るための技術的な検討作業に着手し、中心市街地における集客拠点施設として再整備を進める。
目標値・最新値	目標値：4,420 人増／日 最新値：増加なし
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	高槻市場は現在も中心市街地ににぎわいをもたらしている対面式市場であるが、施設の再整備に向けた関係者の合意形成に至らず、目標は未達成となった。
計画終了後の状況(事業効果)	平成 22 年度に、地元組織による計画策定等が進められたが、集客拠点施設の整備には至っていない。
当該事業の今後について	引き続き、地権者等が事業推進に向けた関係者間の合意形成をはじめ、計画案の課題検討等に取り組む。

⑤ 百貨店イメージ向上施策等による集客力向上事業（株松坂屋）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 22 年度～平成 26 年度【実施中】
事業概要	J R 高槻駅南側に立地する百貨店「松坂屋高槻店」が、高槻センター街や中通り本通り等の周辺商店街と連携した販売促進事業の展開し、エリア全体の回遊性向上を図る。
目標値・最新値	目標値：2,000 人増／日 最新値：2,000 人増／日
達成状況	達成

達成した(出来なかった)理由	松坂屋高槻店と、高槻センター街の連携による、共同販促事業が行われたことで、「地元密着型」の百貨店としてのイメージが歩行者通行量に影響を与え、目標達成に至ったと考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	現在も百貨店と商店街が連携して販売促進事業を実施している。
当該事業の今後について	引き続き、商業者が中心市街地の回遊性向上に資する取り組みを実施していく。

⑥ ジャズのまち発信拠点整備事業(高槻まちづくり株)

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成23年度～平成26年度【実施中】
事業概要	「ジャズの街・高槻」のイメージの定着化を図るため、年間を通して情報発信を行い、日常的に「ジャズの雰囲気を感じられる街」となるよう、中心市街地内の遊休施設を活用し、ジャズに関連する情報発信及び活動拠点を確保するとともに、高槻の都市ブランドの確立を目指して、市外からの集客・交流機能や青少年の音楽教育機能を持った恒久的な施設の整備に向け検討を行う。
目標値・最新値	目標値：60人増/日 最新値：増加なし
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	ジャズに関連する情報発信や活動拠点となる施設の整備に向けた候補地等が確定できず、目標達成には至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	中心市街地内に、事業の目的に沿った遊休施設等が無かったことから、情報発信及び活動拠点の確保には至っていない。
当該事業の今後について	引き続き、ジャズに関連する拠点となりうる施設について検討を行っていく。

⑦ 回遊性向上に向けた道路整備事業(1号線、6号線)(高槻市)

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了期間	平成21年度～平成26年度【実施中】
事業概要	高槻町1号線、6号線は、路面の老朽化が著しく、また、段差や視覚障害者誘導ブロック等のバリアフリー化にも対応できていないことから、道路の再整備により、移動の円滑化及び利便性の向上を図る。
目標値・最新値	目標値：1,700人増/日 最新値：573人増/日
達成状況	未達成

達成した(出来なかった)理由	整備対象である市道高槻町1号線及び6号線については、関係者合意形成が図られ、無電柱化の工事に着手しているものの、完了予定は平成28年度を見込んでおり、目標達成には至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	6号線は工期の遅れにより平成27年度に繰越中であり、1号線も工期のスケジュール上、道路の完成には至っていない。
当該事業の今後について	高槻町6号線の工事(繰越)及び高槻町1号線の工事を実施予定。

### ⑧ 商店街による商業基盤施設整備事業(中通り本通り商店街)

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了期間	平成21年度～平成26年度【実施中】
事業概要	中通り本通り商店街は、高槻センター街と平行して走る二本の道路を中心に形成された商店街である。この商店街における街路灯及び放送設備は導入から約30年が経過し老朽化が進んでいる。これら商業基盤施設のリニューアル及び防犯カメラの新設を一体的に行うとともに、はみ出し陳列、不法看板等へのソフト的な対策を講じることで、安全・快適な歩行空間の実現を目指す。
目標値・最新値	目標値：1,700人増/日 最新値：1,461人増/日
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	「中通り本通り商店街」に防犯カメラを設置したほか、街路灯をLED化したことで、夜間も安心・安全に歩ける空間を確保できたが、ソフト面での対策を十分に行うには至らず、目標は未達成となった。
計画終了後の状況(事業効果)	平成25年度に防犯カメラを新設、平成26年度に街路灯のLED化を実施し、安全・快適なまちづくりに寄与している。
当該事業の今後について	ソフト面の取組については、引き続き実施していく。

### 3. 今後について

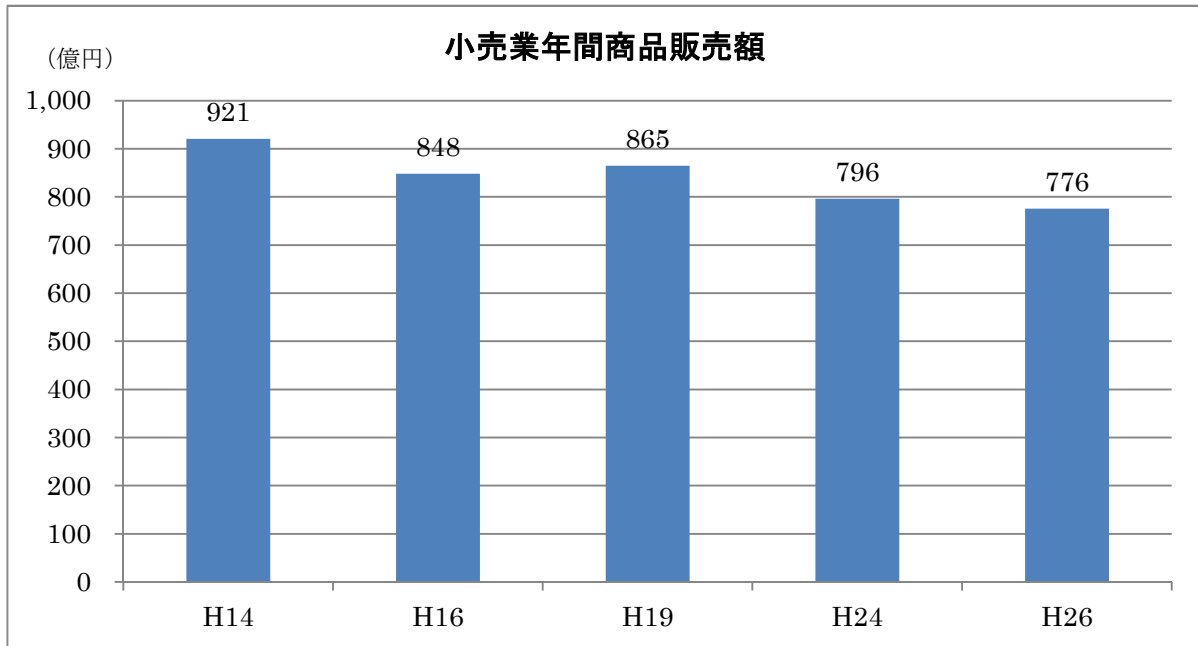
目標達成に向けた主要事業である、民間事業者による大規模集合住宅などの整備は、多少の遅れはあるものの順調に進捗しており、大学による都市型キャンパスの整備については、平成21年度末に事業が完了している。そのため、新たな居住者や通学者を、中心市街地に回遊させることが出来るかがポイントであった。

中心市街地内の歩行者通行量(平日)について、計画策定時の57,642人/日に対し、対策を講じない場合の平成26年の推計値は42,973人/日まで減少する見込みであったが、55,986人と、推計値を上回った。

今後は、さらに「まちの魅力」を高めるとともに、居住者・来街者を誘導・案内する効果的な事業展開を行うため、ハード・ソフトの両面から、回遊性の向上に資する取組を検討し、実施していく。

「小売業年間商品販売額」※目標設定の考え方基本計画P69～P72参照

1. 調査結果の推移



※平成 14～19 年は商業統計調査、平成 24 年～26 年は経済センサス活動調査より

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

① 民間事業者による大規模集客・複合施設の整備(北東地区) (阪急不動産株)

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了期間	平成 22 年度～平成 26 年度【実施中】
事業概要	本市の玄関口である J R 高槻駅の北東地区に、物販・飲食・福祉サービス機能が付加された共同住宅等の整備を行う。北東地区の玄関口にふさわしい施設として多様な機能の導入を図るものである。
目標値・最新値	目標値：78 億円／年 最新値：増加なし
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	事業者である阪急不動産が工事を一旦中断し、複合棟 B の事業計画を見直ししたことにより、事業完了時期が延期となり、目標は未達成となった。
計画終了後の状況(事業効果)	計画期間内に事業が完了しなかったこともあり、目標は未達成となったものの、複合棟 B 棟については事業が再開し、完成に向けて工事が進んでいる。
当該事業の今後について	事業計画の見直しにより、一時的に進行が中断されたが、平成 28 年度の事業完了に向けて、引き続き実施していく。

② 民間事業者による大規模集合住宅等の整備（北東地区）（阪急不動産㈱）【再掲】

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 26 年度【済】
事業概要	本市の玄関口である J R 高槻駅の北東地区に、約 900 戸の集合住宅の整備、また、商業・業務・サービスなどを備えた複合施設の整備を行う。
目標値・最新値	目標値：5 億円／年 最新値：増加なし
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	当初の計画どおり、J R 高槻駅北東地区に大規模集合住宅が整備され、居住人口は増えたが、経済状況等の影響により、目標達成には至らなかったと考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	新規住宅が供給されたことにより、当該地区における小売業年間商品販売額の減少傾向の抑止に一定の効果があったと考えられる。
当該事業の今後について	実施済み。

③ 大学による都市型キャンパスの整備（北東地区）（(学)関西大学）【再掲】

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了期間	平成 20 年度～平成 21 年度【済】
事業概要	本市の玄関口である J R 高槻駅の北東地区に、関西大学高槻新キャンパスを新設する。小学校・中学校・高等学校・大学・大学院・社会人までの一貫教育を実践するとともに、市民活動を支援する市民開放施設を整備する。また、大学では安全・防災・危機管理を取り扱う（仮称）社会安全学部を設置し、地域に根ざした大学として「社会貢献型都市キャンパス」を目指す。
目標値・最新値	目標値：4 億円／年 最新値：増加なし
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	当初の計画どおり、J R 高槻駅北東地区に関西大学の新キャンパスが整備されたが、経済状況等の影響により、目標達成には至らなかったと考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	大学の立地により、小売業年間商品販売額の減少傾向の抑止に一定の効果があったと考えられる。
当該事業の今後について	実施済み。

### 3. 今後について

小売業年間商品販売額は、目標値および基準値達成に及ばなかったが、本市ではJR高槻駅のホーム拡充、新西口改札の整備、新名神高速道路・高槻インターチェンジ・ジャンクションの供用開始など、まちのにぎわいをもたらす計画が進んでおり、交流人口の増加が見込まれ、中心市街地での購買力の向上につながる仕掛けが必要である。

集客力の高いイベントは、現在、いくつか実施されており、例えば「高槻まつり」「高槻ジャズストリート」「たかつきバル」「食の文化祭」「高槻アート博覧会」「高槻シティハーフマラソン」等は、市内外から多数の参加がある。各部署や実行委員会等と連携し、商業の活性化(商品販売額の向上)に繋がる取組内容の検討をしていきたい。

また、本市のマスコットキャラクター「はにたん」のイラストを使用した商品も次々に開発され、駅や百貨店で販売されており、今後の拡充も期待できるところである。

平成27年度には、新たに「高槻市観光振興計画」も策定予定であり、観光振興の面からも、高槻再発見およびブランド形成を行っていきたい。

今後、協議会、行政、民間事業者、各関係機関や団体等と本市の未来像を共有しながら意見交換を継続し、多くの人を訪れるにぎわいのあるまちづくりに向けて、次期計画の策定を行っていきたい。